



関西大学

# 大阪都市遺産研究センター

## Newsletter

No. 3 2011年3月31日

### 目次

第 1 回大阪都市遺産フォーラム	1
大阪都市遺産研究センター 第 3 回研究例会	2
大阪歴史博物館所蔵古写真の調査	3
「豊臣期大坂図屏風」の調査	3
関西大学総合図書館所蔵 映画・演劇ポスターの調査	4
新刊紹介	4

## 第 1 回大阪都市遺産フォーラム

平成 23 年 2 月 26 日、第 1 回大阪都市遺産フォーラムが開催された。このフォーラムは市民の方がたに向けて研究成果の発信をおこなうものである。当日は定員 200 名の会場が満席になるなど、多くの方にご参加していただいた。第 1 回大阪都市遺産フォーラムはテーマを「大大阪」時代の社会・文化景観 大衆社会と都市の原風景」とし、大大阪時代の文学・芸能・建築についての講演とパネルディスカッションをおこなった。

基調講演は藪田貫氏（関西大学文学部教授 / センター長）がおこなった。演題は「息づかいが伝わる都市遺産～山田伸吉画「道頓堀今昔」によせて～」であった。本

センターに寄贈された絵画「道頓堀今昔」の作者である山田伸吉と、その周辺をめぐる都市遺産を語るものであった。講演の際には、演台の横に山田伸吉が描いた「道頓堀今昔」と「住吉大社夏祭り」が展示され、山田伸吉の絵画を目の前に見ながらの贅沢な講演となった。

パネルディスカッション「『大阪時事新報』と文学・芸能・建築」では、大谷渡氏（関西大学文学部教授 / センターサブリーダー）をコーディネーターとして、3 名のパネリストが報告をおこなった。まず大谷氏から本フォーラムの主旨と「大大阪」時代の大阪の都市遺産についての話があり、そのまま大谷氏の進行のもとにパネル



ディスカッションが進行した。

笹川慶子氏(関西大学文学部准教授/センター研究員)の報告は「大阪映画文化の誕生」、増田周子氏(関西大学文学部教授/センター研究員)の報告は「文芸記事から見る文学」、橋寺知子氏(関西大学環境都市工学部准教授/センター研究員)の報告は「モダン都市大阪への変貌」というものであった。これら3名のパネリストの報告は、大阪都市遺産研究センターで行われている『大阪時事新報』の記事調査の成果をもとにした研究報告であった。その後、大谷氏、笹川氏、増田氏、橋寺氏によるパネルディスカッションが行われ、それぞれの研究成



果から大阪の都市遺産についてさまざまな意見の交換がなされた。

本フォーラムでは、あわせて展示「絵画・写真で見る大阪ところどころ」を開催した。山田伸吉画「道頓堀今昔」「住吉大社夏祭り」の他、大阪の都市遺産を描いた絵画や写真など、大阪都市遺産研究センターが所蔵する作品を展示した。開会前や休憩時間、閉会後の時間などにフォーラムの参加者がこれらの展示を鑑賞し、本センターのリサーチ・アシスタントが展示の解説を行った。



## 大阪都市遺産研究センター 第3回研究例会

平成23年2月26日(土)、第3回研究例会が行われた。今回の研究例会では、関西大学校友の上田浩三氏(上田バイアス株式会社相談役)より寄贈していただいた山田伸吉画「道頓堀今昔」にちなみ、道頓堀をテーマに取り上げた。

研究例会では、まず「道頓堀今昔」を寄贈していただいた上田氏に、関西大学から感謝状が贈呈された。

その後、肥田皓三氏(元関西大学教授)、上田氏と、道頓堀界隈の建築を多く手がけている坂本昌彰氏(アウ建築工務代表取締役)、藪田貫氏(関西大学文学部教授/センター長)の4名で、山田伸吉の絵画をテーマとし

た鼎談をおこなった。

上田氏と坂本氏からは、「道頓堀今昔」を発見してから、今日こうして寄贈されるまでに至るいきさつについて、当時の状況を振り返りながら、お話をいただいた。それによると、道頓堀でかつて営業していた「すし半松五郎」という店舗が解体・改装される際に、当初はついたての形で残されていたものであったという。改装を手がけることになっていた坂本氏が上田氏に話をもちかけ、上田氏はそのまま廃棄されかけていた絵画を、「なんとなく雰囲気のある絵で、このまま廃棄するに忍びない」との思いで引き取ったとのことであった。



昭和 56 年（1981）に山田伸吉が亡くなった後、肥田氏は「すし半松五郎」で行われた「山田伸吉を偲ぶ会」に出席しており、その場で「道頓堀今昔」を目にしたことがあるとのことであった。さらに肥田氏は、自身の所蔵である大阪松竹のパンフレットや小冊子「松竹座ニュース」などを参加者に見せながら、山田伸吉のプロフィールや手がけた仕事を詳細に説明した。

続いて、黒田一充氏（関西大学文学部教授 / センター

研究員）と林武文氏（関西大学総合情報学部教授 / センター研究員）による報告が行われた。黒田氏の報告は「難波八阪神社の船渡御」で、「水都・大阪」にふさわしく、道頓堀を舞台として堀川を船が行く祭礼についてのものであった。林氏の報告は「CG による道頓堀の景観復原」で、本センターの可視化チームが取り組んでいる大正期の道頓堀を再現した 3DCG の制作に関するものであった。

## 大阪歴史博物館所蔵古写真の調査

大阪都市遺産研究センターでは、サブテーマ A「水都大阪」を中心として、大阪歴史博物館が所蔵する写真の調査をおこなっている。この写真は、近畿民俗学会の会員で、写真家として有名でもあった三村幸一氏が撮影したものである。三村幸一の写真家活動は、人形浄瑠璃や文楽など、芸能関係の写真集が著名であり、昭和 12 年（1937）には第 12 回写真美術展で文部大臣賞を受賞している。また三村は文楽に関する著作も記しており、こうした分野に強い関心を寄せていたことがうかがえる。

大阪歴史博物館へ寄贈された写真は 4871 点、ポケットアルバムは 503 冊におよぶ。またこのほかにスライ

ドになっているポジフィルムもある。残された写真の内容は、芸能関係のものが半数以上を占め、民俗関係のものがそれに次いで多い。撮影された時期は、昭和 20 年代から平成 5 年頃までという。

本センターでは、三村幸一氏旧蔵写真をスキャンしてデジタル化し、その後に写真の調査を進めていく予定となっている。フィルムをスキャンするにあたっては、後にパネルサイズまで拡大して利用することを想定し、解像度 4800dpi でスキャンをおこなっている。

## 「豊臣期大坂図屏風」の調査

「豊臣期大坂図屏風」は、2006 年にオーストリア・グラーツ市のエッゲンベルク城（世界遺産）で発見された。関西大学なわ・大阪文化遺産学研究センター（平成 17 年度～ 21 年度）での鑑定の結果、これまでに数点しか作例が確認されていない、豊臣期の大坂を描いた屏風絵であることが判明した。2007 年から 2009 年にかけて、関西大学なわ・大阪文化遺産学研究センターと州立博物館ヨアネウム（オーストリア）、大阪城天守閣の 3 者による共同研究が行われた。その後も引き続き、大阪都市遺産研究センターで研究が進められている。

今年度、大阪都市遺産研究センターでは「豊臣期大坂図屏風」の研究にかかる調査として、名古屋市博物館で開催された「変革のとき 桃山」、岐阜市歴史博物館で開催された「洛中洛外図に描かれた世界」、八幡市立松花堂美術館で開催された「松花堂昭乗とふるさと八幡の宝物—受けつがれた絵画—」を視察・調査した。

これまでの研究により、「豊臣期大坂図屏風」と同じ絵師あるいは工房が制作したとみられる屏風絵があることが指摘されている。それらの屏風絵が、岐阜市歴史博物館と八幡市立松花堂美術館の特別展で出展されてい

る。中でも八幡市立松花堂美術館で展示された「東山遊楽図屏風」は新発見の屏風絵で、この度が初めての公開となるものであった。

名古屋市博物館では新発見の「洛中洛外図屏風」が展示されており、この屏風絵は豊臣秀吉が築城した伏見城が詳細に描かれるなど、豊臣期の景観を描いた作例として貴重な作例である。この屏風絵は、名古屋市博物館の好意により熟覧の許可をいただき、調査させていただくことができた。



## 関西大学総合図書館所蔵 映画・演劇ポスターの調査

映画のポスターなどの商業美術は、都市特有の遺産の一つであるといえる。関西大学総合図書館には、昭和初期の松竹座のポスターが65点所蔵されている。この度、これらのポスターの調査を行った。ポスターの中には、大阪出身の画家・グラフィックデザイナーであった山田伸吉がデザインを手がけたものが含まれている。山田伸吉は大阪松竹でデザイナーとして活躍するかたわら画家を志し、作品を残している。大阪都市遺産研究センターでは、山田伸吉の画業を研究テーマの一つとしており、今回の映画ポスター調査もその一環である。

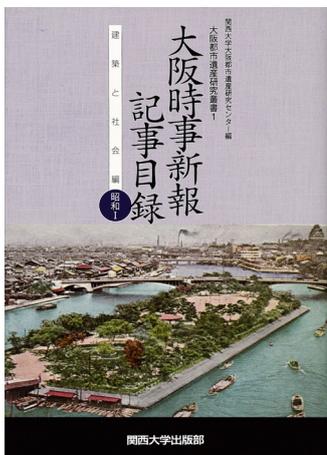
調査の結果、関西大学総合図書館が所蔵する映画ポス

ターのうちデザイナーのサインが入ったものが4点あり、この中に山田伸吉のサインは認められなかったが、興行された演劇の舞台意匠・図案担当として山田伸吉の名が記されているものが2点確認された。また山田伸吉は、大阪松竹のポスターに使用される飾り文字をデザインしたことも知られており、今回調査した中にも山田伸吉デザインの飾り文字を使用しているとみられるポスターが確認された。なお今回の調査では関西大学総合図書館に許可を取り、調査とあわせて写真撮影をおこなった。

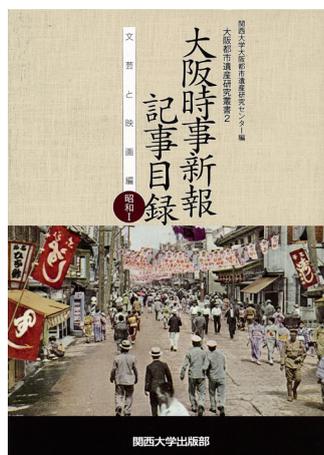
## 新刊紹介

この度、本センターより大阪都市遺産研究叢書2冊が刊行された。『大阪都市遺産研究叢書1 大阪時事新報記事目録 建築と社会編 昭和I』と『大阪都市遺産研究叢書2 大阪時事新報記事目録 文芸と映画編 昭和I』である。これまで調査を進めてきた『大阪時事新報』の記事目録で、本センターの最初の出版物となる。

「建築と社会編」は、橋寺知子氏（関西大学環境都市工学部准教授/センター研究員）の解説、「文芸と映画編」は増田周子氏（関西大学文学部教授/センター研究員）、笹川慶子氏（関西大学文学部准教授/センター研究員）の解説を収載している。



関西大学大阪都市遺産研究センター編『大阪都市遺産研究叢書1 大阪時事新報記事目録 建築と社会編 昭和I』関西大学出版部、平成23年3月31日、定価4,000円



関西大学大阪都市遺産研究センター編『大阪都市遺産研究叢書2 大阪時事新報記事目録 文芸と映画編 昭和I』関西大学出版部、平成23年3月31日、定価5,800円

## 関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 3 2011年3月31日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail [osaka-toshi@ml.kandai.jp](mailto:osaka-toshi@ml.kandai.jp)

